様式1

令和６年度　学校評価表

学校教育目標	自ら学び，考え，発信する子供の育成

a　ミッション	小中連携教育を基盤とした確かな学力定着の取組の充実	a　ビジョン	○児童の主体性を育み，未来につながる学力をつける学校 ○幼・小・中の連携による学びの連続性を大切にする学校 ○家庭・地域とともに，子供の育ちを考える学校

尾道市立美木原小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
学びを創る	「考える伝え合う力」の育成	読解力の向上	①フレームリーディングの手法を生かした「読むこと」の指導。 ・計画的な校内研修の実施 ・職員による交流タイムの充実（国語授業、ノート指導・音読指導等） ②基礎学力を高めるドリルタイムの工夫。 ・全員が集中して取り組む15分間の実現。	①国語科単元末・学期末テスト（思考・判断・表現）期待値以上の児童の割合 ②標準学力調査の通過率全国平均以上の児童の割合（国語科） ③児童アンケートの肯定的回答の割合	①80%以上 ②80%以上 ③80%以上	①60.9% ②なし ③93.1%		96.3%	B	・方策①では、国語科の授業改善に向けた校内研修と、取組の交流タイムを実施した。授業づくりと学級経営を繋げ、授業改善を行うことを全体で共有し取り組んだ。しかし、単元末・学期末テストにおいては課題がある。 ・方策②では、他校の取組を参考に各学級で課題を設定して取り組んだ。取組内容や方法に学級差があることが課題である。	○			・フレームリーディングの手法を生かした読むことの指導を継続することで、結果が出ると思う。 ・方策①について、活動達成度は良好である。方策②は、課題に対する取組を職員間で共有していると思われる。 ・読解力の向上に向け、本に親しむこと、活字に触れること等は、学校だけでなく家庭でも取り組んでいただけるとよいと思う。 ・毎日繰り返し行うことが習慣になり、義務ではなく主体的に行動すること、それが自立につながっていくと思う。 ・課題を把握して取り組んでいると思う。	・目指す子供の姿を明確にして交流を進め、具体的に取り組むことを共有する。 ・授業の中に、話すこと・書くこと・読むことの活動を取り入れて、児童の思考を意識した授業展開を行う。 ・ドリルタイムが全校の取組になるように、教員間で指導法を共有したり、学習の様子を見合ったりして、15分間の学習指導を積み重ねる。
生活を創る	「学校生活を創る」主体的で実践的な力の育成	主体性の向上	①学級活動の充実 ・児童主体の話し合い活動（生活目標の振り返り、学級・学校の課題と改善のための方法、よりよい学校生活にするために等）を学期に2回以上実施 ②委員会活動の充実 ・児童主体の児童集会等の実施（月に一度の児童集会、各委員会からの企画、全校遊び等）	①児童アンケートの肯定的回答の割合（7月・12月実施） ・学級活動について（全学級） ・委員会活動について（5・6年）	80%以上	・81.6% ・97.5%		111.9%	A	・方策①では、「児童主体の話し合い活動」に各学級が積極的に取り組んだ。その結果、学期に２回以上を実施し、155%の達成率であった。教員・児童共に、「児童主体の話し合い活動」について、意識の高まりが表れてきたが、話し合いの質の向上には課題がある。 ・方策②では、児童会執行部が中心になり、自分達で児童集会を計画・立案したり、委員会活動で企画を立てたりすることができた。一方、取組の内容はこれまで行ってきた内容になぞられていたり、教員側から投げかけによったりしており、自発的な取組内容としては課題がある。	○			・方策①について155%の達成度は素晴らしい。話し合いの質の向上に課題を感じているようだが、焦らず取り組んで欲しい。 ・他校の実践例等を参考にすることもよいと思う。 ・話し合いの場で、意見を言えなかった児童も少しずつ自分の思いを発言するようになったことは、繰り返して取り組むことで自信がついたからだと思う。経験は大事であるため、継続してほしい。 ・児童自らが考えたり，企画したりした行事での楽しい経験が次につながると思う。挫折や失敗、衝突を重ね、次の挑戦をして欲しい。 ・児童会活動では試行錯誤しながら取り組んでいる様子が伺える。 ・児童が自発的に発言できるよう、お願いします。	・話し合い活動では、自分達の学校生活について主体的に考える会になるように、司会を児童が行う等研修した内容を学校全体で取り組む。 ・9月授業参観は、全校で学活の授業を行うことで、保護者にも取組の様子を見ていただく機会を設ける。（下半期は目標達成の方策を月に1回以上実施として取り組む） ・委員会活動では、学校生活をより良くするための取組や、自分達がやってみたいこと等を、児童同士で自由に話し合う時間を設定し、主体的な活動を促す。
働き方改革	豊かな教育活動の実践	働き方の質の向上	①方策進行管理シートを生かした協働的な働き方の実践 ・キーワード 共有　徹底　協働	教職員アンケート「互いに頼みやすい雰囲気がある」の肯定的回答（7月・１２月）	80%以上	85.7%		107.1%	A	・１学期の教職員アンケートの結果、目標値を５ポイント上回ることができた。「共有すること」に重点を置き、暑会での周知や職員間の交流を行った。月末には方策管理シートを活用し、全職員が振り返りを行い、各主任主事を中心に進捗度を確認した。仕事分担を適宜見直し協働的に働くことや、それぞれの取組が徹底されるように組織的に取り組むことが今後の課題である。	○			・職員が良い雰囲気で働くことが児童の楽しい学校生活につながると思う。忙しい毎日の中でも、職員同士がほっとつながる関係作り、働き方の質の向上を目指して欲しい。 ・職場内では、相手のことを思うことが大事である。 ・職員の連携により、学年での取組を学校全体で共有していることは，小規模校の良さがいかされていると思う。	・2学期以降の予定や計画（学習指導や行事等）に各職員が見通しをもち、早めに取り組む。 ・日頃から職員間で互いに確認しあえるように、また足並みを揃えるように「徹底」をキーワードに働き方の質の向上を目指す。

【自己評価　評価】
A：１００≦（目標達成）　B：８０≦（ほぼ達成）＜１００
C：６０≦（もう少し）＜８０　D：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。